

# 私が演じるまち“かすかべ”

## まちそのものが『舞台』 住民は演じ手であり観客でもある『主役』

日光街道の宿場町である粕壁は、人々が通りに留まることで、まちは賑わい、成長してきた。

時は流れ、春日部駅の誕生により、交通手段が歩くことから鉄道や自動車へと変化し、駅や道路を中心に開発され、まちの中心は通りから駅へと移った。経済的に大きな発展をとげたが、交通手段の変化により人が留まるまちではなく、通過するだけのまちとなってしまった。さらに、通りの主役が人ではなく鉄道や自動車になったことで、住民との関わりが薄れ、魅力を失った通りもまた通過点としてしか認識されなくなった。しかし、春日部市には今も多くの潜在的な魅力を持った通りが存在し、この特徴をもった通りこそが春日部市の財産であるといえる。

### “通過するまち”から“留まるまち”へ

現在のまちの中心である駅を起点として、通りのポテンシャルを活かしながら、まち全体をつなげる整備とそのしくみを提案する。そこで、まち全体を「舞台」、住民をその舞台上で演じる「主役」ととらえ、「主役」が様々なシーンを演じながら、「アドリブ」が期待できる舞台整備を行う。主役としてまちに関わることで、通過するまちから留まるまちへと変化する。

### ①主役のための舞台整備

#### <駅周辺の整備>

自然と人々が集まる大きな森の広場として整備を行う。分断されたまちは緩やかに繋ぐ森は、住民と共に成長し、まちを見守り続ける。

#### <通りの整備>

周辺状況に応じて「歩行者優先」「歩車共存」「車優先」の設定をし、それぞれの場所性を活かした整備をすることで、人の賑わいが溢れ、さらに特徴のある通りとなる。

### ②まち全体をつなげるしくみ

#### <かすかべBOX>

高架下の新しい可能性を持った土地に、箱状の空間であるかすかべBOXを設ける。まちを段階的に成長させていく起爆材であり、まちに点在した様々な要素を繋ぐ役割を果たす。

#### <スイッチステーション>

通過交通を抑制するための交通の切り替え場所としてスイッチステーションを設ける。駐車場の他に、公園+α(場所性)の要素を盛り込むことで、様々な表情が生まれ、まちを彩る拠点となる。

## 森と、人と、まちは共に成長する

